

1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成21年7月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2870900145		
法人名	株式会社 アクティブライフ		
事業所名	アクティブライフ夙川		
所在地	兵庫県西宮市樋之池町16-4 (電話) 0798-70-2700		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成21年6月17日	評価結果確定日	平成21年7月21日

【情報提供票より】 (21年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 21人, 非常勤 人, 常勤換算	16,6

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	2,3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	347,950 円	その他の経費(月額)	24,150 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	420 円
	夕食	525 円	おやつ	105 円
	または1日当たり 1,260 円			

(4) 利用者の概要 (5月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4	要介護2	3		
要介護3	1	要介護4	6		
要介護5	4	要支援2	0		
年齢	平均 88,2 歳	最低	72 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹政クリニック・あずさ歯科
---------	---------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設10年目を迎えるホームは、開設当初から「地域社会との関わりを持ちながら、ご利用者の安心と尊厳のある生活を支えていく」との思いを職員一人ひとりが認識し、常に利用者の思いと向きあい、寄り添いながらの支援がなされている。また、地域の多様なネットワークを活かし地域資源との協働のもと、「ご利用者が住み慣れた街に住みつづけていく」ために、自治会活動・運営推進会議・家族会等を通じた働きかけが継続されている。利用者の高齢化や重度化への対応として、医師・訪問看護と連携し、関係者間での方向性統一の為に協議を重ね、安心と納得が得られるような支援を目指しており、今年度は、医療連携体制の更なる充実のための具体案を検討している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	管理者・職員は、第三者評価をケアサービスの再点検や見直しの機会ととらえ、評価結果はミーティング等で話し合い、サービスの質の確保・向上に活かせるよう取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 職員は評価の意義や目的を理解し、自己評価はミーティングで項目ごとに話し合った後、所長・リーダーが集約し、まとめ上げている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	会議は家族代表・市の職員・民生委員・知見者等の参加により、概ね4カ月に1回の開催となっている。ホームの現状や行事の詳細等について報告し、参加メンバーから意見・要望等を聴き、協議の結果をホームの運営やサービス改善に活かしている。医療連携体制の充実に向け、会議で出された意見を集約し、今後の参考としている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	利用者の現状については家族面会時に報告し、急変時等は電話などで速やかに対応している。また、介護状況レターや「夙川たより」で、ホームでの様子・健康状態等を伝えている。苦情・相談については、面会時や家族会・運営推進会議等にて聴く機会を設け、また、法人全体で家族アンケートも実施し、検討結果をサービスの質の向上に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	夏祭り・だんじり・防火訓練等への参加が継続されている。地域の自治会に加入し、回覧板を届けたり自治会活動への参加を継続する中で、職員は地域の一員としての意識を高め、活動の幅が広がっている。また、キャラバンメイトとして自治体との協力のもと、地域住民に認知症を理解してもらう為の働きかけを行っている。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ご入居者が主人公」「生きがいのある生活」「尊厳を保つ」「地域社会とともに」の4項目を理念に掲げている。地域密着型サービスとしての役割を理解し、利用者の尊厳ある生活を維持しながら地域で支えあい暮らししていく事を支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人研修・現任研修・ミーティング等で意見を出し合い共有化が図られている。また、個別面談の中で個々の考えを聞く機会を設けている。理念はホーム内の見やすい箇所に掲示するとともに、職員が常時携帯している名札の裏に理念や方針が明記され、常に意識したケアができるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り・だんじり・防火訓練等への参加が継続されている。地域の自治会に加入し、回覧板を届けたり自治会活動への参加を継続する中で、職員は地域の一員としての意識を高め、活動の幅が広がっている。また、キャラバンメイトとして自治体との協力のもと、地域住民に認知症を理解してもらう為の働きかけを行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員は評価の意義や目的を理解し、第三者評価をケアサービスの再点検や見直しの機会ととらえ、評価結果はミーティング等で話し合い、サービスの質の確保・向上に活かせるよう取り組んでいる。自己評価はミーティングで項目ごとに話し合った後、所長・リーダーが集約しまとめ上げた。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は約4カ月に1回の開催で、家族代表・市の職員・民生委員・知見者等の参加がある。ホームの現状や行事の詳細等について報告し、参加メンバーから意見・要望等を聴き、協議の結果をホームの運営やサービス改善に活かしている。医療連携体制の充実に向け、会議で出された意見を集約し今後の参考としている。</p>		<p>今後も、地域の理解と支援を得るために、会議への積極的な参加の呼びかけを継続し、おおむね2カ月に1回くらいの頻度での会議の開催が望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議において意見交換の場があると共に、社協が主催する認知症介護者の会「さくら会」に参加し交流を継続している。日常でも、相談・要望等があれば、その都度指導・助言を受けるよう取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族面会の際に利用者の状況を報告し、急な変化がある場合はその都度電話等で連絡している。また、月に1回担当職員が作成する介護状況レター（生活の様子・健康状態・今後のケアの方針等を記載）や、「夙川たより」に行事の様子や利用者の写真等を掲載し毎月送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族面会時に意見や相談を伝えやすいよう配慮し、年2回開催の家族会や運営推進会議においても、意見交換の場を設けている。更に、年に1回法人全体で家族アンケートを実施している。家族からの意見等はミーティングで検討後、経過記録はパソコン入力し職員全体で情報を共有し、サービスの質の向上につなげている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内やユニット間での異動は行っているが、利用者へのダメージが極力少なくなるよう、支援体制に応じた職員の勤務ローテーションの工夫に努めている。また、日常においても利用者や家族との馴染みの関係の維持のために、ユニット入口に職員の顔写真を掲示し、親しみのある雰囲気大切にしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内では、新人職員には採用時研修、現任職員については、経験年数等に応じ段階的な研修制度が整い、年間計画による実施にて、個々のスキルアップを図っている。外部研修は、回覧等で情報提供し参加を支援するとともに、研修参加後は、報告書によるホーム内での伝達研修で情報共有がなされている。職員の自己啓発のために、資格取得に向けてたバックアップ体制を整えている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2カ月に1回開催される地域の連絡会に管理者・主任が参加している。法人内ではグループホーム合同会議が4カ月に1回開催され、法人内での各ホームの交流も継続している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に至るまでに、ホームの見学や併設のデイサービス利用を体験する事で、徐々に雰囲気にならんでもらうよう取り組んでいる。利用者の自宅訪問も数回実施し、入居後の環境変化によるダメージを極力少なくしていけるよう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に、日常のホーム内の家事などを行い、共に過ごす中で関係性が一方的にならないよう配慮している。毎日の「朝の会」での利用者と職員の会話の中で、得意だった料理を教えてもらう、趣味の話を聞く、昔の歌を教えてもらう等、学び、支えあう場面を作っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時等に、本人や家族から聴取した生活歴や関心事・要望等を把握し記録に残している。また、日々の暮らしの様々な場面において、本人の言葉・様子・しぐさ等から思いや意向をキャッチし、それぞれの個別性を大切にされた支援がなされている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の利用者・家族からの情報を参考にアセスメントし、職員間で話し合い介護計画を作成している。利用者がホームの暮らしに馴染み、より良く暮らしていく為に、家族や本人の思いを大切にされた計画の立案に努めている。計画作成後は家族に説明し同意が得られている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングなどで利用者の状況について検討し、6ヶ月に1回の定期的な介護計画の見直しを行っている。また、心身の状態の変化があれば、医師との連携を図り、速やかな見直しに努めている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望するかかりつけ医への通院介助・入院時の送迎や病院との連携等、その時々に応じた柔軟な対応や支援を行っている。利用者から個々の買い物・外食等の要望があれば、家族と相談しながら個別での外出について支援している。利用者の状況に応じて、訪問介護・訪問看護等、他のサービスと連携し体調の安定を図っている。		
4.より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による往診が2週間に1回あると共に、利用者が希望するかかりつけ医への受診支援も行っている。受診状況について、家族には電話や状況レター等で経過を随時報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について、ホームとして出来る事・出来ない事を明確にし、そのつど家族に説明している。職員は、ターミナルケアについて理解を深めるために研修を受講し、家族からの希望があれば支援できるよう努めている。利用者の状態の変化に応じて家族や担当医と話し合い、方針の統一を図っている。医療連携体制加算を検討中である。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>理念に「尊厳を保つ」を掲げ、日々のケアの中で、ご利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心掛けている。また、法令遵守に関する研修を定期的に行い、個人情報の保護や守秘義務について認識を深め、パソコンのセキュリティ管理は徹底している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の高齢化・重度化が進む中、本人の望む、その人らしい暮らしへの支援も難しくなっている状況ではあるが、利用者一人ひとりのペースを尊重し、穏やかな時間が過ごせるよう、個別的な関わりに配慮した支援がなされている。起床や就寝の時間・食事・入浴時間など、それぞれの状態やペースに合わせた支援を心掛けている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>施設内厨房にて献立作成・調理された食事が提供されている。年間行事に合わせて季節感のあるメニューへの変更や、誕生日にはケーキのデコレーションを利用者に手伝ってもらうなど、食事の楽しみも大切に支援している。利用者の体調や力量を見極めながら、食事作りの流れの中で、負担のない範囲で手伝ってもらっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本の入浴時間は夕食後の場合が多いが、利用者の希望の時間があれば応じれるよう配慮している。介助の必要な利用者は、スライドチェアー等活用し、安全面に配慮した支援がなされている。季節の変化を感じてもらうために菖蒲湯・ゆず湯等の工夫を取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「朝の会」での利用者と職員との交流の中で、個々の利用者の楽しみや出番が見い出せるよう働きかけ、その日の利用者の様子や思いも把握できるよう取り組んでいる。また、日々のアクティビティは、ボランティア等の協力も得ながら、利用者の思いに沿って楽しめるよう工夫している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の高齢化等での身体機能の低下により、個々の思いにそった外出支援が難しくなっているが、個別対応にて、それぞれの希望や体調に配慮した外出ができるよう工夫している。年間行事での外出支援とともに、日常の中で、近隣スーパーやコンビニに行く・周辺の散歩・玄関横の菜園の世話や日光浴等、屋外に出て外気に触れる機会を作っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族等が自由に来訪できるよう玄関は開錠している。ホーム周辺の環境等考慮し安全確保の為に、エレベーターはテンキー操作であるが、利用者に閉塞感の無いよう、さりげなく見守り、外出の希望があれば職員がその都度個別に応じるよう配慮している。ミーティング等で施錠を含む身体拘束について日々検討している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の訓練を実施し、夜間想定した取り組みもある。近隣の消防署と連携を図り、周辺地域で実施している防火訓練に参加し、協力を体制を築いている。緊急時対応の為に施設内にAEDを設置し、安心・安全面において地域に貢献している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調・嗜好等に配慮し、必要に応じて栄養士や医師と連携し的確な支援を行っている。毎月の体重測定や食事・水分摂取量の把握にて、健康状態の変化に迅速に対応している。摂取状況等はパソコンにて管理し職員間で情報共有している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の壁や家具は落ち着いた色調で統一されている。随所に絵画や季節の花を飾り、窓からの日差しはカーテン等で適宜調整し、穏やかで居心地良くすごせる工夫がある。リビングのカレンダー・時計・掲示物等は、周囲との調和に配慮し掲示してあるが、利用者が見やすく分かりやすいよう、大きさや設置位置の工夫もなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には木製の表札をかけ、利用者一人ひとりの「住まい」として、個別性を重視した対応を心掛けている。各部屋は利用者の意向にそって、使い慣れた調度品・装飾品等が持ち込まれ、思い思いの時間を過ごしている。居室での電話利用を希望すれば、その都度対応していく配慮もある。		

は、重点項目。